



財政調整基金をドーンと使い 暮らしに希望と元気を！

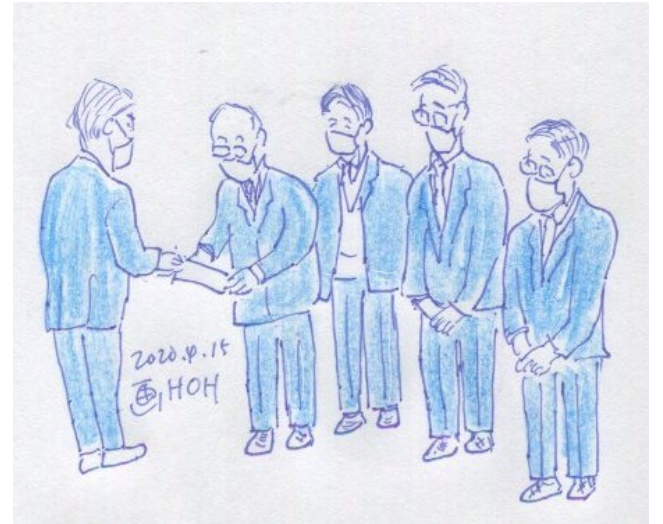
日本共産党議員団が「新型コロナ対策」で3回目の緊急要望

上越市議会の日本共産党議員団は15日、「新型コロナウイルス対策」で3回目の緊急要望を村山市長に提出しました。

感染拡大への不安とともに、かつてない経済危機に直面したなか、上越市の財政調整基金は103億円（2019年度末）もあります。これは新潟市の6倍になります。

議員団では、「こういうときこそ、財政調整基金を思い切って取り崩すことなどによって、市民の要望にこたえるべき」と5項目の緊急要望（下段の囲み参照）を行いました。

上越市が思い切った対策に踏み出せば、かつてない危機と不安に直面している市民を激励することになります。



- 1 妊婦、人工透析者はもちろんのこと、その他の市民についても、希望者にはマスク、消毒液を配布すること。
- 2 「生活支援臨時給付金」は1人10万円として、無条件で速やかに支給するよう政府に働きかけるとともに、市独自の「生活支援給付金」（仮称）を支給すること。
- 3 政府は4月8日、新型コロナウイルス感染症の影響により収入が減少した人に対して、国民健康保険税、介護保険料、固定資産税を減免すること、自治体がそれらの減免を行った場合に財政支援を行うことを決め、関係機関に通知した。当市でもこれらの減免に積極的に取り組むこと。
- 4 市税の徴収猶予及び換価の猶予制度、上下水道料金の徴収猶予、減免制度の活用を周知すること。
- 5 政府は自粛を求めるものの、補償については消極的である。自粛と一体で補償を行うよう、政府に強く働きかけること
- 6 新型コロナウイルス感染症の地域経済への影響は数年間に及ぶ可能性があると言われていたことをふまえ、市内中小零細業者などへの直接的財政支援を具体化すること。また、市が今年度末をもって廃止しようとしている住宅リフォーム促進事業については、ただちに継続を決め、関係者に周知すること。



【ヒトリシズカ】再掲。センリョウ科の多年草。漢字で「一人静」と書きます。花は白、小さなブラシの様な形をしていあす。十数年前、尾神岳のふもとで初めて出会いました。本で何度も見ている、初めて出会ったときはなかなかわからないものですが、この花はすぐにヒトリシズカだとわかりました。源義経が愛した女性、静御前のイメージにぴったりだったからです。今回は吉川区西野島のあるお宅の庭で出会いました。花言葉は、「愛にこたえて」「隠された美」。

はしづめ法一の 活動レポート

No.1956 2020.4.18
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第六〇三回

笑顔ふたたび

先日、九六歳になったばかりの母ですが、父の命日に緊急入院しました。今回は心筋梗塞が原因で時間との戦いとなったことから、かつてなく緊張しました。

病院に到着後、速やかに検査、手術をしてもらい、その後、集中治療室で治療していただきました。

高齢でしたが手術は成功し、手術後、気持ちはずいぶん楽になりました。ただ、集中治療室での治療が長くなると、昼と夜の区別ができなくなりやすく、認知症の人は症状が悪化する可能性も大きいとお聞きし、心配になりました。実際のところ、異常行動をしたり、医療器具を取り外したりした場合の対応などについても説明を受けました。

母が緊急入院して二日後の午前、病院の看護師と思われる人から電話がかかってきました。「何かあったのか」と一瞬、緊張しました。

こういうときは、どうしても悪い知らせではないかと思いがちですが、電話の内容は思いがけないものでした。容体が悪化したのではなく、午後に集中治療室から一般病棟に移るといって知らせられたのです。

この日は、午後から病院へ行くことにしていました。集中治療室では、精神的に落ち着かせ、できるだけ、いままでのままでいてほしい。そのためには、時の流れを意識してもらおうと小さな置き時計を母のベッドのそばに置く。家族の写真を見える場所に貼ってもらい、私たちが忘れることがないようにする。そんなことを考えていました。

電話をくださった看護師さんは、「もしよろしかったら、(写真などを渡す際)病室を見ておいてください」と言ってくれました。集中治療室を二日で出られるだけでもうれしかったのですが、その上、母

とも会える。ありがたいというか、願ってもないことでした。

私は、午後二時前に病院へ行き、集中治療室の入り口付近のイスに座って母が一般病棟へ移動する時間まで待機しました。

予定した時間になると、集中治療室の入り口の戸が開き、男性の看護師さんが、「橋爪さんですね。これから一般病棟に移ります」と言われました。まもなく、ベッドに乗った母が集中治療室から出てきました。母は目をつむったまま、全く動きませんでした。母は貧血を起こしていて、輸血をしてもらっていました。

母のベッドを移動しながら、看護師さんたちと話をしました。私から、「うちの母は耳が遠いんですわ」と言うと、なんと聞くことでしょうか、ベッドから「おりゃ、聞こえるよ」という声が返ってきたのです。びっくりしましたね。

エレベーターに乗って一般病棟の部屋に入室すると、看護師さんがテレビの位置などを調整して、準備してくださいました。ベッドの上で輸血の管などを見ていた母が「おれ、血を輸血しているのか」と言ったのには笑いました。

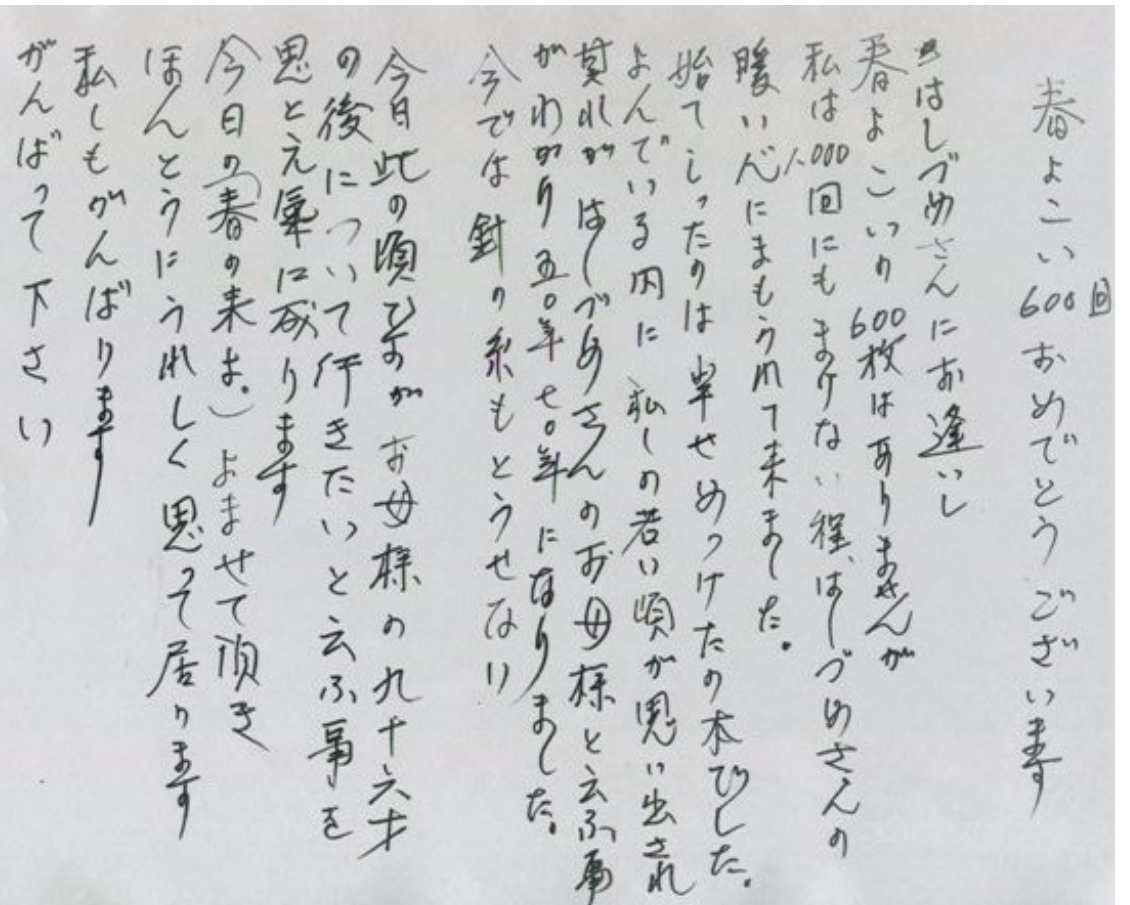
持参した私をはじめとする家族の写真、母は喜んで見てくれました。

このうち、ひ孫のリョウ君の写真は数年前のもの、「もうこんなになっただか」という言葉は、現実とはだいぶ離れていましたが、まあ、ひ孫の名前をちゃんと覚えましたが、それだけで良しよししょう。

救急車で運ばれる前、苦しい表情を見せていた母ですが、ふた月ほど前の私の写真を見たとき、「いい顔してる」と言いました。すかさず、「おまんの子だもん」と返したら、「ふふふ」と言って笑顔をみせてくれました。母の笑顔が復活したのです。こんなに嬉しいことはありません。

「春よ来い」へのメッセージ(2)

山間部在住の80代の女性から素敵な手書きメッセージをいただきました。私のつたない文章でもお役に立てて、うれしいです。シリーズ「春よ来い」の前に書いていた『幸せめつけた』(恒文社・在庫なし)も大島区の「あさひ荘」で入手し、読んでいただいていたとのこと、びっくりでした。



上越地域各消防署における 空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。
消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのことです。

	4月8日(水)	4月15日(水)
上越南消防署	0.043	0.050
上越北消防署	0.047	0.040
新井消防署	0.047	0.043
頸北消防署	0.047	0.053
頸南消防署	0.050	0.060
東頸消防署	0.050	0.050
高士分遣所	0.057	0.050
名立分遣所	0.047	0.053